

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：2022 年 4 月 25 日 報告者：河内 誠

行事種別	研究会（オンデマンド）	行事番号	220000149	
開催日	配信：令和 4 年 4 月 3 日（日）～16 日（土）			
時 間	開 始	—	終 了	—
場 所	オンデマンド配信			
テーマ	頻出菌を学びなおす-細菌界の二大巨頭 黄色ブドウ球菌と大腸菌-			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点（e-learning 回答で付与）			
司 会	なし			
講 師	1. 黄色ブドウ球菌 同定と感受性 名古屋大学医学部附属病院 川村 和光 2. 黄色ブドウ球菌 感染症と治療 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 山田 直輝 3. 大腸菌 同定と感受性 一宮市立市民病院 木村 達也 4. 大腸菌 感染症と治療 JA 愛知厚生連安城更生病院 杉浦 康行			
内 容	本年度は、コロナ禍で学ぶ機会が減少したことを受け、感染症の頻出菌を改めて学び直す場を提供することを主な目的とし、研究会を企画している。本研究会はその第一弾という位置づけであった。 講演 1 では、感染症において最も遭遇する頻度の高い黄色ブドウ球菌について、菌の同定方法ならびに薬剤感受性の傾向、耐性菌について学び、続けて講演 2 では、黄色ブドウ球菌の起こす感染症と治療について講演を行った。 講演 3 では、黄色ブドウ球菌と並んで遭遇する頻度の高い大腸菌について、菌の同定方法ならびに薬剤感受性の傾向、耐性菌について学び、続けて講演 4 では、大腸菌の起こす感染症と治療について講演を行った。 参加者は非常に多く、有意義な会であった。			
参加者	総数：136 名（会員 103 名、県外会員 33 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）（レポート提出 122 名）			
共催、後援など	なし			

愛臨技學術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：2022 年 7 月 24 日 報告者：河内 誠

行事種別	研究会（現地開催）	行事番号	220002567
開催日	令和４年７月２日（土）		
時 間	開 始	14:00	終 了 17:00
場 所	JA あいちビル 14 階大会議室		
テーマ	頻出菌を学びなおす-食中毒の頻出菌 サルモネラとカンピロバクター		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	小牧市民病院 西尾 美津留		
講 師	1.サルモネラ 同定と感受性 豊橋市民病院 山本 優 2.サルモネラ 感染症と治療 愛知医科大学病院 坂梨 大輔 3.カンピロバクター 同定と感受性 西尾市民病院 鈴木 更織 4.カンピロバクター 感染症と治療 JA 愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠		
内 容	本年度は、コロナ禍で学ぶ機会が減少したことを受け、感染症の頻出菌を改めて学び直す場を提供することを主な目的とし、研究会を企画している。本研究会はその第二弾という位置づけであった。 講演 1 では、細菌性食中毒において遭遇する頻度の高いサルモネラについて、菌の同定方法ならびに薬剤感受性の傾向について学び、続けて講演 2 では、サルモネラの起こす感染症と治療について講演を行った。またチフスならびにパラチフスについても同時に学ぶことが出来た。 講演 3 では、細菌性食中毒において最も頻度の高いカンピロバクターについて、菌の同定方法ならびに薬剤感受性の傾向について学び、続けて講演 4 では、カンピロバクターの起こす感染症、治療、さらに合併症であるギランバレー症候群について講演を行った。久しぶりの現地開催であり、参加者は多くなかったが、現地開催ならではの熱量の高い講演と質疑応答があり、現地開催の利点を再確認できた大変有意義な会であった。		
参加者	総数：46 名（会員 46 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）		
共催、後援など	なし		

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：2022 年 8 月 20 日 報告者：河内 誠

行事種別	基礎講座		行事番号	220002972	
開催日	令和 4 年 8 月 7 日（日）				
時 間	開 始	9:00		終 了	17:00
場 所	名古屋大学大学院医学系研究科 基礎研究棟 3 階				
テーマ	考動へ！身に付けよう、微生物検査の基本スキル				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	名古屋掖済会病院 市川 佳保里、名古屋大学医学部附属病院 川村 和光				
講 師	実技 微生物検査研究班班員 一同 講演 1 喀痰 愛知医科大学病院 坂梨 大輔 講演 2 尿 小牧市民病院 西尾 美津留 講演 3 便 豊橋市民病院 山本 優 講演 4 血液 JA 愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠				
内 容	微生物検査経験年数 3 年以下を対象とし、一つ一つの検査について、なぜその検査を行っているのか、検査結果にどういう意味があるのかを再考してもらう内容として基礎講座を企画した。 午前の実習では、検査開始から最終報告するまでの一連の流れを通して、班員がコツやひと手間をアドバイスしながら、どのように考えて検査を進めていくか、臨床に貢献できる情報をどのように得て伝えることができるか、検査に有益な情報を電子カルテなどから得ることの重要性などを体感していただいた。 午後の講義では、午前の実習の内容に沿って、実習中に解説しきれなかった部分の補足を含め、改めて復習する内容とした。 班員、参加者ともに初めて基礎講座を体験する方も多く、初めは戸惑いもあったものの、同じ経験年数の参加者を 1 つの班にし、参加者 2 名につき班員 1 名が担当することで、手厚い実習を行うことができた。				
参加者	総数：42 名（会員 42 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）				
共催、後援など	なし				

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 4 年 9 月 20 日 報告者：河内 誠

行事種別	研究会	行事番号	220005368	
開催日	令和 4 年 9 月 4 日（日）～18 日（日）			
時 間	開 始	－	終 了	－
場 所	オンデマンド配信			
テーマ	頻出菌を学びなおす-肺炎の頻出菌 肺炎球菌とインフルエンザ桿菌-			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司 会	なし			
講 師	1.肺炎球菌 同定と感受性 公立陶生病院 廣瀬 明宏 2.肺炎球菌 感染症と治療 JA 愛知厚生連安城更生病院 杉浦 康行 3.インフルエンザ桿菌 同定と感受性 一宮市立市民病院 木村 達也 4. インフルエンザ桿菌 感染症と治療 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 原 祐樹			
内 容	本年度は、感染症の頻出菌を改めて学び直す場を提供することを主な目的とし、研究会を企画している。本研究会はその第三弾という位置づけであった。 講演 1 では、市中肺炎において遭遇する頻度の高い肺炎球菌について、菌の同定方法ならびに薬剤感受性の傾向について学び、続けて講演 2 では、肺炎球菌の起こす感染症と治療について講演を行った。 講演 3 では、同じく頻度の高いインフルエンザ桿菌について、菌の同定方法ならびに薬剤感受性の傾向について学び、続けて講演 4 では、インフルエンザ桿菌の起こす感染症、治療、さらにワクチンについても講演を行った。 県内のみならず県外からも多くの参加者があり、有意義な会であった。			
参加者	総数：143 名（会員 96 名、県外会員 47 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）・申込総数：199 名			
共催、後援など	なし			

【総数】 現地開催、ライブ配信：参加者を記載（非会員や学生など内訳を記載）

オンデマンド配信：レポート提出者と講師、実務委員を記載

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 4 年 9 月 20 日 報告者：河内 誠

行事種別	研究会	行事番号	220005357
開催日	令和 4 年 9 月 3 日 (土)		
時 間	開 始	14 時 00 分	終 了 17 時 00 分
場 所	所在地 名古屋市 JA あいちビル 14 階大会議室		
テーマ	頻出菌を学びなおす-肺炎の頻出菌 肺炎球菌とインフルエンザ桿菌-		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	豊橋市民病院 山本 優 技師		
講 師	1.肺炎球菌 同定と感受性 公立陶生病院 廣瀬 明宏 2.肺炎球菌 感染症と治療 JA 愛知厚生連安城更生病院 杉浦 康行 3.インフルエンザ桿菌 同定と感受性 一宮市立市民病院 木村 達也 4. インフルエンザ桿菌 感染症と治療 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 原 祐樹		
内 容	本年度は、感染症の頻出菌を改めて学び直す場を提供することを主な目的とし、研究会を企画している。本研究会はその第三弾という位置づけであった。 講演 1 では、市中肺炎において遭遇する頻度の高い肺炎球菌について、菌の同定方法ならびに薬剤感受性の傾向について学び、続けて講演 2 では、肺炎球菌の起こす感染症と治療について講演を行った。 講演 3 では、同じく頻度の高いインフルエンザ桿菌について、菌の同定方法ならびに薬剤感受性の傾向について学び、続けて講演 4 では、インフルエンザ桿菌の起こす感染症、治療、さらにワクチンについても講演を行った。 オンデマンド配信との並行開催であり、現地参加は少なかったが、現地開催ならではの熱量の高い講演と質疑応答があり、現地開催の利点を再確認した有意義な会であった。		
参加者	総数：21 名（会員 21 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）・申込総数：11 名		
共催、後援など	なし		

【総数】 現地開催、ライブ配信：参加者を記載（非会員や学生など内訳を記載）

オンデマンド配信：レポート提出者と講師、実務委員を記載

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 4 年 12 月 19 日 報告者：河内 誠

行事種別	講演会	行事番号	220009520
開催日	令和 4 年 12 月 12 日（月）～ 18 日（日）		
時 間	開 始	－	終 了
場 所	オンデマンド配信		
テーマ	コロナ禍の今、子どもの感染症とワクチンの不安にどう寄り添う？ ～COVID-19 と HPV を中心に～		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	JA 愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠 技師		
講 師	JA 長野厚生連佐久医療センター 小児科医長 坂本 昌彦		
内 容	今回の講演会では、「教えて！ドクタープロジェクト」など各種メディアで小児医療を発信している坂本先生をお招きし、COVID-19 ならびに子宮頸がんの病態と、予防するためのワクチンプログラムについてお話頂いた。 微生物検査技師が主に携わるのは細菌感染症であり、ウイルス感染症やワクチンについては苦手とする技師も多いと思われる。現役の小児科医から、臨床検査技師や一人の親として知っておくべきことを分かりやすくご講演頂いた。 県外からも多くの参加があり、大変有意義なオンデマンド配信となった。		
参加者	総数：120 名（会員 81 名、県外会員 38 名、非会員 0 名、賛助会員 1 名、学生 0 名、その他 0 名）・申込総数：189 名		
共催、後援など			

2022.10.12

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 4 年 12 月 19 日 報告者：河内 誠

行事種別	講演会	行事番号	220009339	
開催日	令和 4 年 12 月 3 日（土）			
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了	17 時 00 分
場 所	ライブ配信			
テーマ	コロナ禍の今、子どもの感染症とワクチンの不安にどう寄り添う？ ～COVID-19 と HPV を中心に～			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司 会	JA 愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠 技師			
講 師	JA 長野厚生連佐久医療センター 小児科医長 坂本 昌彦			
内 容	今回の講演会では、「教えて！ドクタープロジェクト」など各種メディアで小児医療を発信している坂本先生をお招きし、COVID-19 ならびに子宮頸がんの病態と、予防するためのワクチンプログラムについてお話頂いた。 微生物検査技師が主に携わるのは細菌感染症であり、ウイルス感染症やワクチンについては苦手とする技師も多いと思われる。現役の小児科医から、臨床検査技師や一人の親として知っておくべきことを分かりやすくご講演頂いた。 講演終了後には多数の質問があり、大変有意義なライブ配信となった。			
参加者	総数：40 名（会員 30 名、県外会員 10 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）・申込総数：70 名			
共催、後援など				

2022.10.12

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：微生物検査研究班 提出日：令和 5 年 2 月 15 日 報告者：河内 誠

行事種別	研究会		行事番号	220017912	
開催日	令和 5 年 2 月 11 日 (土)				
時 間	開 始	14 時 00 分	終 了	17 時 00 分	
場 所	所在地 名古屋市 JA あいちビル 14 階大会議室				
テーマ	頻出菌を学びなおす -同定と届け出に注意！ 赤痢菌と髄膜炎菌-				
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点				
司 会	JA 愛知厚生連江南厚生病院 河内 誠				
講 師	1. 令和 4 年度愛臨技精度管理報告 小牧市民病院 西尾美津留 2. 赤痢菌 同定と感受性 刈谷豊田総合病院 安藤真帆 3. 赤痢菌 感染症と治療 名古屋大学医学部附属病院 川村和光 4. 髄膜炎菌 同定と感受性 JA 愛知厚生連豊田厚生病院 加藤雄大 5. 髄膜炎菌 感染症と治療 名古屋掖済会病院 市川佳保里				
内 容	本年度は、感染症の頻出菌を改めて学び直す場を提供することを主な目的とし、研究会を企画している。本研究会はその第 4 弾という位置づけであった。 講演 1 では、今年度実施した愛臨技精度管理事業についてポイントを解説した。 講演 2 では、遭遇する頻度は低いものの、遭遇した場合には確実な釣菌・同定が必要になる赤痢菌について、菌の同定方法ならびに薬剤感受性の傾向について学び、続けて講演 3 では、赤痢菌の起こす感染症と治療について講演を行った。 講演 4 では、同じく頻度は低いものの、遭遇した場合には正確な同定ならびに感染対策が必要な髄膜炎菌について、菌の同定方法ならびに薬剤感受性の傾向について学び、続けて講演 5 では、髄膜炎菌の起こす感染症、治療、ワクチンについて講演を行った。 現地開催ならではの熱量の高い講演と多くの質疑応答があり、現地開催の利点を再確認した有意義な会であった。				
参加者	総数：34 名（会員 34 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）・申込総数：49 名				
共催、後援など	なし				

2022.10.12